

茨城県水産試験場
中期運営計画実績評価書
(平成 23 年度から平成 27 年度)

平成 28 年 11 月

茨城県水産試験場

評価委員会

水産試験場 実績評価

【総合評価】 試験研究機関に期待される役割や目標等に照らし合わせ、質・量の両面において着実に取組を実施していると判断できる。	H23	H24	H25	H26	H27	実績評価
	A	A	A	A+	A	

【委員からのコメント】

<p>・東日本大震災以降5年間は、本県水産業を集中的に復旧・復興する期間であったが、行政と連携・歩調を合わせ、試験研究サイドからの積極的な復旧等の取組を進め、未だ一部において震災の影響は残るものの本県漁獲量は全国第3位になるなど、一定以上の十分な成果を得たものと評価する。特に、水産物の安全性の確保と風評被害防止のため、放射性物質のモニタリング調査を継続して実施していることは高く評価する。</p> <p>・他機関との連携を進めてきたことは理解するが、今後は特に県内他試験研究機関との連携をより一層深めるべきと考える。</p> <p>・漁業者や水産加工業者等に対して、試験研究の結果や成果をこれまで以上に積極的かつ丁寧に伝えていただきたい。また、水産試験場の役割について一般県民の理解を深めてもらう意味において、一定の努力をお願いしたい。</p> <p>・中期運営計画及びこれに基づく実施計画に定める数値目標等については、着実に取り組まれていると評価するが、今後は回数だけではなく、質の面からも意欲的な目標を検討していただきたい。</p>

i) 県民に対して提供する業務

1) 試験研究(完了課題)

年度	研究課題	H23	H24	H25	H26	H27	実績評価
H23	1) ハマガリ資源の回復	A					A
	2) 資源管理技術の開発(安定同位体分析で明らかになったワカサギの回遊生態)	A					
	3) 高鮮度保持・流通技術の開発(涸沼川系ヤマトシジミの食味)	A					
H24	1) 休耕田における粗放的魚類増養殖手法の開発		A				
	2) 海況予測情報の発信と精度向上研究		A				
	3) 水産物の煮熟加工に伴う放射線変動の解明		A				
H25	1) 効率的な漁場探索技術開発研究			A			
	2) 鹿島灘ハマグリ資源回復			A			
	3) 資源管理技術の開発(安定同位体による内水面魚類生産機構の解明)			A			
H26	1) ハマガリの資源回復				A		
	2) 養殖技術開発と魚類防疫対策の充実				A		
H27	1) ワカサギの資源変動要因探索研究					A	
	2) ハマガリの資源回復研究・年齢査定技術の開発					A	

【委員からのコメント】

<p>・第1期中期運営計画期間中の試験研究は、震災後、限られたマンパワーの中で、全49課題中約4割にあたる20課題について研究が終了し現場での成果活用が図られるなど、総じてよくできたものと評価する。</p> <p>・ワカサギの資源量予測モデル式の開発や、マサバ脂肪量の簡易測定技術の開発、アユの産卵場造成技術の開発など、県内漁業者の生産性向上に直結する研究成果をあげている。</p> <p>・ハマグリ資源量予測に代表される、研究成果が稚貝の大発生といった特定の自然現象が生じた後にしか評価できない研究や、長期にわたり取組を継続する必要がある研究については、漁業者への貢献が分かりやすく、かつ、達成度を評価できる適切なマイルストーンを設定することが望ましい。</p> <p>・今後は、これまでの成果について漁業者などユーザー側に評価を求めながら、更なる研究の深化や新たな課題設定につなげ、水産業振興施策の下支えとなる試験研究課題への取組に期待する。</p>

評価項目	H23	H24	H25	H26	H27	実績 評価
i) 県民に対して提供する業務						
2) 水産業普及指導業務	A	A	A	A	A	A
3) 漁業無線業務	A	A	A	A	A	A
4) 災害時漁業被害発生時の対応	AA	A	A	A	A	A
5) 研究成果, 調査成果の還元と技術の指導・相談業務	A	A	A	A	A	A
6) 設備使用	A	A	A	B	A	A
7) 普及啓発	A	A	A	A	A	A
8) 外部人材育成	A	A	A	A	A	A
9) 広報・情報発信	A	A	A	A	A	A
10) 知的財産の取得・活用など	A	A	A	A	A	A
ii) 業務の質的向上, 効率化						
1) 全体マネジメント	A	A	A	A	A	A
2) 他機関との連携	A	A	A	A	A	A
3) 外部資金の獲得方針	A	A	A	A	A	A
4) 県民ニーズの把握	A	A	A	A	A	A
5) 内部人材育成	A	A	A	A	A	A